

リカちゃん開発チームリーダーの木下歩さん。デザイン画をもとに、商品が生まれます。東京葛飾区



あこがれの半歩先に

リカちゃん
50周年

タカラトミーの着せかえ人形「リカちゃん」は今年で発売から50年。世代をこえて愛されながら、今も進化を続けるリカちゃんの秘密を、開発チームリーダーの木下歩さん(41)に聞きました。



歴代の「リカちゃん」(左から初代、2代目、3代目、4代目)

お母さん世代も夢中

1967年に誕生したリカちゃん。これまでに何度かリニューアルされ、現在は4代目ですが、木下さんは「『女の子のあこがれの半歩先に行く』という考え方は初代から変わっていません」と話します。約10年前からリカちゃん担当になった木下さん。時代とともに変化するあこがれを敏感にとらえて形にするのが仕事です。「ファッション誌も参考にしながら定期的に子どもたちの意見を聞いてデザイン画をかきます。1年間にかくデザイン画はチーム全体で約300枚。そこから年間約70種類の商品が生まれる」と言います。最近では、母親世代も一緒に楽しめるおしゃれを取り入れた新シリーズも開発。発売50周年を記念し

て開かれた特別イベントには、幅広い世代のリカちゃんファンが集まりました。木下さんは「どの世

代にもそれぞれのリカちゃんとの思い出があることを感じました」と話しています。



50周年のイベントで、歴代のリカちゃん人形を見る親子。それぞれのファッションに時代が表れます。7月、千葉県浦安市

情報発信
人気集める

最近のリカちゃんは、会員制交流サイト(SNS)のツイッターやインスタグラムを開設して、おしゃれな着こなしやお出かけスポットなどの情報を発信し、人気を集

めています。リカちゃんからの情報発信の元祖といえば、自動音声でリカちゃんのおしゃべりが聞ける「リカちゃん電話」があります。1968年に

始まり、現在も続くこのサービスは、ファンの女の子からの電話に、女性社員がとっさにリカちゃんのふりをして対応したのをきっかけに発案されたそうです。

Minpo Junior News

みんぼうジュニア新聞

新聞

伝次郎

読む 知る 学ぶ E!新聞

- ◆ 本の世界へようこそ 22面
- ◆ ニュースなぜなに 23面
- ◆ 世界が見える 24面

「みんぼうジュニア新聞」についての感想、意見、質問をお待ちしています。作品の投稿も歓迎します。

F960-8602 福島市太田町13-17
福島民報社編集局報道部「ジュニア新聞」係
メール junior@fukushima-minpo.co.jp

問い合わせは 電話 024(531)4122

わくわく
イベント

「純情産地いわて宣伝部長」を務めている女優のんさん。東京都内で行われた岩手県産米PRイベントで、司会者から「この夏挑戦したいこと」を問われ、「この米を宇宙最強にするために宇宙に行ってみたい」と答えた。新たに発表されたCM

目指せ「宇宙最強」

岩手県産米PR 女優のんさん

「会議編」は、のん本部長が宣伝のために会議室でハッパをかけ、スタッフ役の芸人らがとんちんかんやふりをして知らぬ顔をしたと、米の名前に引っかけた発言で会場を沸かせた。

「たぐさん食べてもらうためにいっぱい宣伝します」と、幹部としての貫禄も。共演の芸人が「芸を披露すると、銀河のスケールを感じました」と、米の名前に引っかけた発言で会場を沸かせた。